

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200184		
法人名	有限会社 みんなの家		
事業所名	グループホームみんなの家 錦織		
所在地	宮城県登米市東和町錦織字内ノ目25-1		
自己評価作成日	平成26年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成26年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して2年半の新しい施設です。今年4月に2名の方の看取りをして、家族・医療・スタッフ間の連携の大切さを実感し、より一層の絆が強まりました。最期まで生きがいや楽しみを持ちその人らしく生活できるように、利用者様の出来ること出来ないことを確認し生活の中での役割や楽しみを持ち、包丁を使った野菜切り、畑の草取り、野菜の収穫、創作など活動として取り入れています。また、認知症デイサービスの利用者様3名の利用で毎日お互いに刺激や元気をもらったり、保育所・小学校・踊りポランティアさんとの交流、季節ごとの外出もあり生活に楽しみを持てるような支援をしています。家族様と一緒に行事に参加することも多くなってきており家族様との交流も盛んです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは北上川のほとり、自然に恵まれた環境にあり、利用者が住んでいた家を思い出してもらえたらと木材をふんだんに使った民家風の落ち着いた建物である。基本理念『優しい笑顔でゆったりと・思いやり敬う心を忘れずに・楽しく生き生き地域と共に』を掲げ、地域住民や保育園児たちと交流し、地域とつながりながら暮らし続けることを大切にしている。管理者・職員は利用者のできることを把握し、ゆったりと自然体で、家族のような支援をしている。利用者は、食事の支度、部屋の掃除など、一人ひとり役割を持ち、自分から進んで、出来ることを無理なく行っている。職員は身体拘束しないケアの研修、法令順守やプライバシー等の研修を行っている。また、管理者は職員の資質向上が図られるよう資格取得に協力的で、職員の働きやすい環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームみんなの家 錦織）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に掲示しスタッフ会議時に確認している。理念に基づき、ゆったりと落ち着いた環境作りに取り組んでいる。	基本理念「優しい笑顔でゆったりと・思いやり敬う心を忘れずに・楽しく生き生き地域と共に」をスタッフ会議で確認をしている。職員は笑顔で利用者のペースに合わせた支援を行っている。地域の保育園の子ども達が遊びに来るなど利用者とは交流している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がボランティアで踊りに来たり、保育園・小学校の行事に招待を受け参加している。誕生日の際には昔からの友人、近所の方を招待し一緒にお祝いしたりし交流を図っている。	町内会に加入し、地域の敬老会、かがり火祭り、保育園の行事、小学校の学芸会などに招待されている。利用者は、ほのぼのの会のボランティアの踊りや、農協の女性部の餅つきを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室や様々な講座を開催して情報提供し、グループホームの役割や認知症について理解頂いている。施設長、副施設長が認知症サポート養成講座の講師をしている。民生委員が見学に来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、意見等頂き実践している。不参加者には会議録を通し内容把握を促している。	メンバーは、市福祉事務所職員、地域包括職員、区長、前顧問、前町内会長、家族、民生委員、第三者委員、職員である。会議は2ヶ月に1回開催し、認知症の研修会や活動報告をしている。事業所の運営状況をグラフ化し分かり易く情報提供し、意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入ってもらい、協力関係を保ちながら状態を把握してもらっている。市主催の研修会、行事には積極的に参加している。	運営推進会議に市職員が参加し、協力関係を築いている。必要な報告・相談・連携をしている。みんなの家通信を作り行政のみならず、小学校・コミュニティーセンター・農協・コンビニに配布し情報の発信をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に身体拘束の勉強会を実施。内部・外部研修に参加し情報の提供や問題意識を常に持っている。玄関は施錠せず開放。帰宅願望の利用者様がいても一緒に出掛けたりし、拘束せず寄り添うケアを行っている。	身体拘束排除を宣言し、身体拘束ゼロを目指し、身体拘束をしないケアの研修を行うなど職員の資質向上に努めている。外に出たい利用者は職員と一緒に散歩に出かけるなど、寄り添う介護に努めている。施錠は20時から翌朝6時である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修に参加し会議時に確認している。職員同士情報交換を行い。身体の変化等見られた際には記録に残し職員間の情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時に制度についての研修がある。法人内の介護支援専門員が成年後見人になっていることもあり分からないことは質問している。管理者が認知症実践者リーダー研修で学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問については、早期に解決できるようにし要望等があれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話を通じて要望を聞いている。また、運営推進会議にも参加して頂き反映できる機会がある。	家族の意見や要望は運営推進会議、面会などで聴いている。遠くの家族へは電話やみんなの家通信など送付し要望を聞いている。意見や要望が思うように言えない利用者には、職員がコミュニケーションをとり、本人の気持ちを把握するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議、全体会議等で、意見や提案を述べることができる。代表者も一緒に食事を取ったり行事に参加し、いつでも提案しやすい環境を整え反映している。	全体会議は3ヶ月に1回行い、スタッフ会議、各委員会会議等で意見や要望を聞いている。より働きやすい環境をめざして職員から夜勤の勤務体制についての提案があり検討し実践した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況を見極め、利用者様にも職員がやりがいを持って就業できる姿を見せられるよう整備し勤務体制の変更など現場の声を聞き変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修。外部研修の知らせ等が、たびたび提示され自ら参加できる機会があり外部の研修にも積極的に参加しスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間複数回の勉強会に参加し、新しい知識や情報の共有を行いサービスの質の向上に努めている。同業者が見学に来たり、見学に行っている。実践報告会にて看取りについて事例発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現状で出来ること、今後どうなりたいかをふまえて、穏やかにゆっくり安心して生活して頂けるよう本人のペースにあわせ関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問題を共有し入居後にも、本人に関わっていけるような関係作りをしている。面会時等にも、家族が困っていること不安な点等含め話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族はもちろん、担当していた介護支援専門員より情報収集を行い対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身で出来ることはなるべく自分でしてもらい、入居者同士でも互いに協力し助け合って生活する関係作りをしている。一人ひとりを理解し常に「してあげている」という気持ちではなく共に暮らしているという気持ちを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アルバムや通信を利用し本人様の様子を知って頂くほか、面会時間を設けずに自由に来所してもらっている。通信には、担当よりコメントを書いている。誕生日会や敬老会などに参加して頂き一緒にお祝いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたいという方がいる場合には連絡をし、または、職員が間に入り会ってもらったり行きたい場所にも、出来る限り付き添っている。また、馴染みの人がいる場所(お祭り、敬老会、ミニデイ等)に参加し交流している。誕生日会に友人を招いている。	行き付けの美容院や馴染みの公園などへ職員と一緒にやっている。孫の結婚式に利用者の写真をDVDに編集する支援を行い、結婚式場で紹介し、家族から感謝された。誕生日会は友人も一緒に楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の性格や相性を考え、席の配置やレクの進行等を行っている。居室を歩き来し、利用者様同士が声を掛けあい役割を持ち生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった際にも弔問へ伺ったり思い出の写真等を手渡し、お墓参りに行ったり、家族が訪れている。夏祭りに招待している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまで、どのように生活してきたのかを参考にし、その都度、意向を確認している。また、外出したい、自宅へ物を取りに行きたい等の要望に、その都度答えている。	利用者の希望や意向は入居時にアセスメントして、日常的に要望を把握し、それにそった支援を行っている。また本人の思いや意向が伝えられない方には選択肢を提供しながら本人の意向にそよう支援する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表や家族、会話の中からこれまでの情報や経緯を把握し今後の活動等に生かすよう職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動の抑制はせず、健康チェックや会話の中で変化を感じるようにしている。24時間シートで毎日の過ごし方を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で話し合い、3か月に1回モニタリングを行い状況改善に役立てたり、心地よく暮らしてもらえるように支援している。	短・長期目標を立てたケアプランになっている。3ヶ月に1回モニタリングを行い、見直しが必要な利用者へは家族の意見を聞きスタッフ会議でプランを見直し家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートで行動の把握や口頭、申し送りノートでの確認により情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「やりたい、行きたい」という要望には、日を置かず実行することを心がけ柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の方が安心して地域で暮らし近所の方々と交流できるよう施設に招いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が付き添えない場合には職員が対応し希望する、かかりつけ医へ現状報告している。	月1回、希望のかかりつけ医に職員が付き添い検診を受け、家族に報告している。歯科医も家族が付き添えない場合には職員が付き添っている。看護師が週1回健康管理を行い、相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人に異常があれば職場内の看護師に報告し指示を受けている。また、週一回訪問看護師が来所し、健康チェック、状況報告を行いアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にも職員が付き添い病院、先生との情報交換をしている。また、定期的にお見舞い、家族への連絡で状況確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期にどのようなケアを望むのか。家族、本人から意向を伺っている。家族、本人の気持ちを尊重しスタッフが統一して取り組んでいる。終末期の勉強会、研修に参加。看取り介護パンフレットを作成。	入所時に看取りに関する指針を説明し同意を得る。終末期にはどのようなケアを要望するか家族、利用者から意見を聞いている。利用者の終末期には、かかりつけ医または往診医、看護師・家族・職員と連携したケアを行っている。職員の内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練にて応急手当や初期対応の訓練を行っている。連絡網もあり、マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	図上訓練や通報訓練。日中、夜間避難訓練の実施し地域の方も参加している。ホットラインに地域の方も加入し地域と防災協定を結んでいる。	6月、消防署員の立会いのもと、日中、避難訓練を行い、炊き出し訓練、消火訓練を運営推進委員も参加し行った。地域の協力員には、ヘルメット・ビブスを渡し協力を依頼している。消火器・火災報知器・スプリンクラー等は年に1回点検している。	夜間帯に避難訓練を行い、近隣住民に参加を働きかけることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを忘れず。一人ひとりの性格や本人の状況に合わせた声掛けや明るく丁寧な言葉遣いを心がけている。	一人ひとりが尊厳ある生活が送れるよう、利用者に合わせた支援をしている。職員はプライバシーと法令遵守の研修を受けている。名前は〇〇さんと呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、本人の思いや希望に耳を傾ける。また、選択肢を出し自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や雰囲気に合わせて活動や作業を行い、一人ひとりのペースに合わせて強制しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの床屋さんに施設に来て頂き散髪している。外出、入浴の際には服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや、皮むき、野菜切り、盛り付け、お茶入れ等一緒に準備している。片付けも一人ひとり役割を持ち行っている。	食材やメニューは業者に委託している。調理師(栄養士)が調理し、利用者と職員と一緒に盛り付け、配膳を行い、一緒に食事をしている。食後は全員で片づけている。誕生会などの行事の際は利用者と一緒に買い物に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シートを使い摂取量、水分量の把握に努めている。摂取量、水分量が少ない場合には、一人ひとりの好みに合わせた物を提供したり時間をおいて提供している。栄養補助食品を使っている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けや、セッティングを行い一人ひとりの状態に合わせてイソジンや舌クリーナーを使用し、口腔ケアの支援を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを使い排泄パターンを把握している。パットの吸収量を少ないのにしたりその時の状態にあわせ自立にむけている。本人の不安や自信を失わないように話し合いながら支援し、清潔を保つためにウォシュレットを設置し対応している	24時間シートを使い排泄パターンを把握し、自立できるように支援している。食事量や水分の量を看護師に報告し健康相談をしている。職員は、利用者が最後まで自立した排泄ができるように目標を立て支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ウォシュレットの設置や体操、毎朝の乳製品の提供を行っている。毎日の乳製品に本人の了承を得て食物繊維の補助食品を使用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず湯温も一人ひとりにあわせ入浴している。菖蒲湯等実施している。	本人の希望、体調を考慮しながら時間を決めず湯温も一人ひとりにあわせ入浴している。菖蒲湯等実施している。	利用者の希望で週に3回、あるいは1日おきに入浴している。湯は2人に1回入れ替え、檜風呂の香りを楽しんでいる。体調の悪い人は、清拭や足湯などを行っている。同性介助の配慮もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の好きな時間に休めるようにしている。就床時間も個人にあわせ、眠れない方は一緒にテレビを見たり談話をし安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助の際は名前と日付け、服薬の時間を確認し飲み終わるまで見守りし誤薬がないようにしている。薬の変更等あった際には情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの嗜好品の持ち込みや、趣味や得意な所を把握して、軽作業や活動を通して楽しみを見出したり役割等を持てるようにしている。毎晩、晩酌している方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出をすることで四季を感じて頂いたり、その時にしかできない体験をしてもらっている。天気の良い時は庭や近所に散歩に出かけている。地域のお祭り、運動会、敬老会にも参加している。家族との外食の支援もしている	外出支援はその日の状況と利用者の体調に合わせて、希望を聞き、桜見物、松島水族館、一関の毛越寺、神割岬、鳴子の紅葉などに出掛けている。利用者が希望している体験を、職員はなるべく叶える様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向に合わせて使えるようにしている。買い物時には、職員付き添いし一緒に支払っている。週一回のパン屋さんに来た時、自分で買っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい際にはサポートを行い。ハガキや手紙を書きたい時には必要な物を準備しいつでもやり取りできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの雰囲気を持つ建物により安心して生活して頂いている。居室やリビングに季節の花を飾ったり創作などで雰囲気を出している。各居室、廊下に湿温計を設置し居心地よく過ごせるようにしている。リビングのどの席からも四季折々の風景が見れることも楽しみである。	リビングは天井が高く天窓がある。部屋全体が暖炉の柔らかな暖かさで包まれている。利用者と一緒に飾ったクリスマスツリーや、一人ひとりが作ったクリスマスリースが飾られるなど季節感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順など互いの性格や関係性を考え場合により再検討している。気の合った利用者様同士が、お互いに居室に遊びに行ったりしている。廊下には、椅子、テーブルを設置している。畳敷き小上がりで談話したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに制限はなく、使い慣れた物に囲まれて今まで通り生活して頂く。配置も家族、本人と相談し以前と同じように配置している。	居室の扉にはリースが飾られている。部屋にはクローゼット、トイレ、洗面台、エアコンが設置されている。さらに馴染みの家具、家族の写真、誕生日のメッセージなどが飾られ、整理整頓がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	これまでの生活の経験を活かせるように、家と同様の一般浴等で残存機能を維持できるようにし居室内にも枕元に灯りのスイッチを置き夜間でも安全に歩行できるように対策している。		